



## 花植え

11月7日(土)8時30分から、ふれあい倶楽部の花壇の手入れ及び花植えを、花水の会の皆さんで行っていただきました。当日は小雨が降る中、古株の整理後パンジー・ビオラの苗を植えていただき、可愛い花が花壇に咲き、来訪者の皆さんを迎えてくれています。



## スポーツ21 クラブ紹介



### 宿南ツェット クラブ

No.2



毎月第2、第4、土曜日が定期活動日です。現在は雪の降った日は休みですが、今後は、天気を見て冬場も活動したいと思っています。

場所は宿南グラウンド(駐在所の横)で人数が少ないですが工夫してゲームを楽しんでいます。大会は年2回(春と秋)あります。積極的に参加します。

令和元年度は18回活動して延べ126人参加でした。



春の但馬大会は思うような好成績ではありませんでしたが、秋の但馬大会は43チーム中9位でした。(人数は少ないですがよく頑張りました)

ツェットの用具はグラウンドゴルフと同じですがボールが少し違うだけです。競技は5人が一組で行います。相手ボールを押し出す(カーリングと同じ)点で、嫌われるようです。楽しいのに敬遠されます。

どうぞ一人でも多く参加(入部)して下さい。お願いします。

代表 池田 十四子



### 宿南卓球 クラブ

No.3



昨年7月から活動しており、会員20人、現在は小学生~大人の10人で活動しています。卓球台5台(本年度は7台に増す予定)練習日は毎週月曜日で小学生は19時30分~21時、大人は20時~21時30分で宿南小学校体育館を利用して汗を流しております。2月9日(日)に開催されました養父市小学生卓球大会において、

高学年の部 優勝 池田 壘音さん 準優勝 宿南 尊哉さん  
低学年の部 優勝 池田 望来さん が入賞されました。



目標「みんな楽しみながらラリーができるようになります。」

大人の方もお友達誘って気軽に参加してください。今後ラリーができるようになったら試合に参加してもらおうと思っています。



代表  
副代表

田村 弥也  
西村 正



## 参加者 募集中

第112号で自治協活動の 体操・カラオケ・ふれあいの日 参加者募集をいたしました。活動曜日は下記の通りです。

体操	毎月曜日	午前
カラオケ	毎月曜日	午後
カラオケ	毎木曜日	午後
ふれあいの日	月一回	午後



詳細をお知りになりたい方は宿南地区自治協議会にお問い合わせください。

## 喫茶 ひまわり

## お知らせ

年末年始休業日 12月24日(木)～1月14日(木)  
営業再開 1月18日(月)  
甘酒 ふるまい 1月18日(月) 1月21日(木)  
小学校作品展(全校生) 11月27日～開催中



- ▶マスク着用・手洗い・うがいを行う
- ▶三密の回避(密接・密集・密閉)
- ▶多人数での飲食はしない(4人以下)
- ▶ソーシャルディスタンスの確保
- ▶換気を行う
- ▶他

お願い

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため

## 草庵先生紹介



日記 25



天滝には何度も架け橋を渡って行く

濱篤さん作

「日本の滝百選」にも選ばれている天滝は、養父市大屋町筏の山中にある。落差は100メートル近い雄大なものだ。池田草庵は泊まりがけでこの滝を見に行った。

まず、天滝の近くに住む人からの誘いがあった。

「午後、夏梅村(現在の養父市大屋町夏梅)の人より便りが来る。天滝に遊びに来るように勧めてきた。返事を書く」(嘉永元<1848>年3月9日)

草庵には、塾生の家族や元塾生だった人から、「ぜひ来てくれ」というような招待がよくあった。草庵もそれに応じて時折、但馬地域のあちこちに出かけていた。この夏梅村の人の招待には、手紙を受け取ってから約1ヶ月後に出かけている。

「昼食の後、保田順と塾生3、4人連れて夏梅村に行く。宿は鎌田平兵衛氏の家。八鹿の西村五兵衛も一緒に行く」(同年4月7日)

宿として泊まったのは夏梅村の鎌田氏の家とある。草庵の立誠舎時代の門人帳には「養父郡夏梅村人 鎌田吉太郎(改名・平兵衛)」と書かれている門人がいるが、その人の家だろう。

そして翌日。あいにくの雨のため山に入るのは中止になっている。「この日は雨で、鎌田氏の家に戻っていた。近くの人が絵の掛け軸をもってきてみる。夜になって晴れる。この夜は市場村(現在の養父市大屋町市場)に行き、田村見藏氏の家を宿とする」(同年4月8日)

そして3日目。いよいよ山に入り天滝を見た。「筏村(現在の養父市大屋町筏)の山中に入る。天滝の景観をみる。この日、一緒に行った者はみんなで15～16人」(同年4月9日)

草庵は、青谿書院を塾生など、3、4人と出発したが、この日は大屋の人たちも加わり、天滝に行ったのは15人ほどにふくれあがっている。日記は以上のように簡潔だが、天滝を見た感慨などはおよそ1ヶ月後に書いた「游天瀧記」という文章にまとめられている。次回に紹介したい。

池田草庵先生に学ぶ会